

即時独立をして

会員 小寺 悠介



「ソクドク」という選択

2014年2月28日、新宿区四ツ谷にて法律事務所を同期3人で開業した。現在は、弁護士が4名となり、この原稿が掲載されるころには開業して約4ヶ月が経過しているころだろう。

即時独立という道は2013年3月ころにはほぼ決めていた。理由としては、当初から早期独立を考えていたこと、一緒に仕事がしたい同期がいたこと、弁護士人口が増加しているなかで今が最後のチャンスかもしれないと思ったことなど挙げるとキリがない。

修習中は即時独立ないし早期独立した弁護士の方々に会いに行ったりしていた。それに加えて、知人には弁護士登録をしたら直ぐに開業することを前もって伝えていた。そのおかげか開業して間もなく仕事の依頼がきた。登録・開業後ではなく、修習中から活動していたことが功を奏したと思うので何事も数手先を考えて行動するのが大事だと実感している。

隣の芝生は青く見えるもの??

飲み会などで同期と話す時、当然「最近どう?」という話になる。周りの同期は事務所に入ってボスや先輩弁護士のもとでバリバリと仕事をしている。ときには優しく、ときには厳しく指導され日々成長しているのだと思う。その分、飲み会ではいろんな苦労話に花が咲くのだが。

そのなかで同期からは「仕事取れているの?」と聞かれることが多い。私は、「それなりにね。でももっと増えて大丈夫!」と答えている。なぜなら、彼らは刑事国選を交代してくれたり、自分では担当できない個人事件を紹介してくれるかもしれないからだ。

また、同期から見ると、私は「自由」に仕事をして

いるように見えるらしい。確かに同期で事務所を経営しており(売上は個人別・経費を分担という形式なので、それが経営といえるかは置いておいて)、個人の事件を自分の裁量で処理しているので同期からはそう映るのだろう。私としてもボスや先輩弁護士がいて、色々指導してもらえる環境にいる同期が羨ましくないと云ったらウソになる。

しかし、それぞれの環境は比べられるものでもなく、それぞれ「隣の芝生は青く見える」のだと思う。私としては同期の話を聞きながら自分を省みる良い機会にしている。

そして、私は即時独立という道を選択した以上は、自分の芝生が青くなるように(見えるように)常に努力していきたい。

先輩弁護士によるサポートへの感謝

業務をしていると自分の判断に迷うときがある。その時は弁護士会の図書館に籠って調べたり、事務所内の弁護士に相談することに加えて、委員会でお世話になっている会員の方やクラス別研修の担任にメールや電話をしたり、法曹大同会の会合や勉強会に参加してベテランの会員の方に質問などを行っている。色々質問ばかりの私に付き合ってくれる先輩方には感謝するばかりだ。

さいごに

このリレーエッセイを書くことによって、多くの会員の皆様に私たちの事務所を知ってもらうことができたのではないと思う。最近司法修習生が事務所見学に来るようになったので、独立の大変さは正直に伝えながらも少しでも明るい姿を見せていきたい。